

【表題】 航空大学校におけるインシデントの発生傾向について 【調査報告】

【著者】 柴田 智史

【発表】 航空大学校研究報告 R-65

【時期】 2012年10月

【概要】

世界の航空輸送における安全への取り組みとしては、Safety Management System（以下「SMS」という）が挙げられる。SMSは、「A systematic approach to managing safety, including the necessary organizational structures, accountabilities, policies and procedures.（安全を管理するための体系的な取り組みであり、必要な組織体制、責務、方針及び手順を含むもの）」とICAOで定義されている。

これまでの一般的な安全対策は主にインシデントが発生してから何か対応するという事後対応型であったが、SMSではインシデントが発生した時にその危険因子の特定とリスク評価を行い、リスク低減の対策を実施して事故を未然に防止しようとする、予防に重点を置いた事前予防型の方法を採用している。

航空大学校には安全管理規程に定められている、実科教官と学生が報告するパイロットレポート、整備課職員によるメンテナンスレポート、運用課職員によるオペレーションレポート、職員及び学生によるヒヤリハットレポートがある。

より安全に操縦教育を行うために、これまでの航空大学校で発生した操縦者（教官及び学生）によって生じたインシデントの発生状況や傾向を把握しておくべきであると考え、2005年から2011年までの7年間の状況を調査分析したので報告する。